

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	令和 3 年 8 月 4 日（水） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 3 0 分
開催場所	Web 開催 高松市役所（防災合同庁舎）3 階 3 0 2 会議室
議 題	（1）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績について （2）新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況について （3）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（K P I）の見直し について （4）ビジョン懇談会委員からの意見と回答について （5）その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	嘉門会長、松岡副会長、有澤委員、笠井委員、栗委員、佐野委員、 土井委員、永森委員、英委員、加藤委員、石川委員、竹上委員、圓 藤委員
傍 聴 者	0 人 （定員 3 人）
報道機関	0 人
担当課及び 連絡先	政策課（087-839-2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題（1）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績について

（会長）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの取組実績について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料5～11ページ）】

（会長）

会議経過及び会議結果

評価方法が高松市とそれ以外の市町で違うので、評価結果を一覧で示してもあまり意味がないのではないか。連携市町も高松市と同じような評価方法にすれば、結果を比較しやすくなるのではないか。

(事務局)

評価基準のうち、「成果の達成度」については、改善に向けて検討してまいりたい。

議題（２）新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況について

(会長)

新型コロナウイルス感染症の影響及び対応状況について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料１２～１６ページ）】

(会長)

香川県も、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えている。インバウンドも期待できず、交流事業は非常に厳しい状況に置かれている。その中、いろいろな分野でICTを積極的に活用しようとする前向きな取組が行われているという説明であった。

コロナ禍で首都圏、あるいは関西圏でも、遠隔での働き方やリモートワークが増えてきている。Iターン、Uターンに興味がある人に向けて、圏域の魅力を高める動きが必要である。そのためにも、ブロードバンド回線全体の厚みを増す取組に期待したい。

議題（３）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（KPI）の見直しについて

(会長)

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（KPI）の見直しについて、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料１７～２０ページ）】

(会長)

K P I の見直し後の値を、新型コロナウイルス感染症の影響がでる以前の、令和元年度中に見直した数値を元としているので、令和 5 年度に目標が達成できないと危惧されるが、なぜ本日の懇談会で示したのか。

(事務局)

連携中枢都市圏ビジョンに記載のある取組は、何らかの形で高松市の計画に記載のある事業なので、元となる計画の目標値が変われば、ビジョンの K P I についても整合性を図るために、見直しをしなければならない。確かに令和 5 年度の目標達成は困難かもしれないが、第 6 次高松市総合計画は毎年度見直すような性質の計画ではないため、K P I を令和元年度に行った第 6 次高松市総合計画の見直し後の値に修正するものである。

(会長)

資料の 20 ページに「地域防災対策事業」とあるが、今年の 7 月 15 日に流域治水関連法の一部が改正され、市町村の流域防災に重点を置いた施策が導入された。今後、香川県を通じて市町にも通知があると思うが、高松市だけでなく連携市町も含めて、地域防災計画の中に取り込んで、改正内容を反映するよう努めていただきたい。

議題（４）ビジョン懇談会委員からの意見と回答について

(会長)

ビジョン懇談会委員からの意見と回答について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料 21～22 ページ）】

(会長)

委員の方々から提出いただいた意見とその回答が 2 例紹介されたが、意見なり、別の視点での意見などがあれば、御発言いただきたい。

(委員)

連携中枢都市圏のポータルサイトがあるが、多くの方に検索してもらえるような

工夫が必要ではないか。

(会長)

各市町のホームページのトップページに、連携中枢都市圏の観光情報を掲載するなど、相互に連携することで、多くの人に見てもらえるのではないか。

(委員)

ポータルサイトへのアクセスのしやすさだけでなく、情報の新しさや、随時更新をしているということが伝わる必要があるのではないか。また、若者に情報を届けるために、フェイスブックやインスタグラムといった手法も活用し、日常的に情報発信をしていくことが大切ではないか。

これとは別に、W i t hコロナ、A f t e rコロナの中で、観光のあり方自体が変化をすれば、オンラインツアーのようなものが今後拡大するかもしれない。

(事務局)

ポータルサイトのアクセス数を増やす方策や、また、情報発信手法がホームページに限られている点については、ポストコロナを見据えながら、見直しができる点がないか、連携市町とも協議していきたい。

また、観光のあり方についても、次の第6次高松市総合計画の中で、観光部門とも協議しながら見直していき、バーチャル技術、オンラインツアー等の活用についても、次年度以降の実施計画の中で検討していきたい。

次の連携中枢都市圏ビジョンの基本構想と第6次高松市総合計画の開始時期が同じなので、新たなビジョンを策定する際は、K P Iの考え方について整理し、状況に応じて柔軟に適切なK P Iが設定できるような枠組みを作っていきたい。

議題（5）その他

(会長)

本日は、オブザーバーとして県自治振興課長にも御参加いただいている。県内の動向など、懇談会として知っておいた方がいいものがあれば御発言いただきたい。

(香川県)

まず、国が策定している「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」について、その概要を簡単に紹介させていただく。

この中で、新型コロナウイルス感染症の拡大が契機となり、地方で暮らしても、テレワークで都会と同じ仕事ができるとの認識が拡大したことを踏まえて、地方創生テレワークの推進がうたわれている。本県においても、今年度の新規事業として、サテライトオフィスの拠点整備事業、テレワークの拡大による県内転入支援事業といった新たな支援事業に取り組んでいる。

また、地方創生の視点として「ヒューマン」、「デジタル」、「グリーン」という三つの視点が挙げられている。

ヒューマンは、地方への人の流れの創出、人材支援。デジタルは、地方創生に資する、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進。グリーンは、地方がけん引する、脱炭素社会の実現。そのうちのヒューマンについては、地方創生テレワークや、企業の地方移転の促進、地域における人材支援の充実といったことをうたっている。

県としてもこういった、創生基本方針を踏まえて、今後取り組んでいきたい。

(会長)

DXや脱炭素化社会といった方針は、広域連携においても非常に重要なので、県とも連携しながら、連携都市圏の取組として進展していただきたい。

【事務局より今後の予定等について説明（資料無し）】

(会長)

以上で、本日の懇談会を終了する。